

イグレードオフィスの相性が良いこともあり、移転や見直しもありそうです。一方で、通信インフラや環境整備が求められ、見直せない業種もあります。この課題を解決できれば、さらに在宅勤務が進み、働き方や住む場所において不動産業態の考え方が変わることもあるでしょう。個人的には、強気な賃料設定をしてきたオーナー側も、アフターコロナに向け柔軟に対応し、もう少し安価で新規参入がしやすい環境に進めば良い、と考えざるをえません。



不動産市況は先行きが読みにくい状態ですが、アフターコロナの未来、旧態依然の発想では乗り遅れる可能性が大きいと感じます。新型コロナウイルスをきっかけとした変化は一時的なものではなく、以前と同じ状況に戻ることはないともいわれています。今後も、居住地や居住形態の選択肢を拡大するなど、市場の変化に合わせた速やかな戦略転換が必要です。

どんな市場の変化にも柔軟に対応できるよう、顧客のニーズをキャッチし、スピード感のある行動がより必要となる 2021 年。LTR もあらゆる面で皆さまのお役に立つために、全力でしっかり歩んでいきたいと思っています。(公認不動産コンサルティングマスター 大川 日出幸)

える
カフェ

お茶をビジネスに取り入れる!? ～茶道のススメ～

カフェというと西洋のコーヒーを思い浮かべますが、ここでは日本のお茶に関するお話をしたいと思います。

現代の茶道は、女性のたしなみとして受け取られることが多いですが、日本における茶道は本来、男性のためのものでした。戦国時代、茶道は武士にとっていわゆる必須科目であり、力だけではなく知識や教養を習得するためにたしなんでいました。また、茶道の持っている「心身のリフレッシュ効果」や「集中力を高める効果」などを求め、茶道を必要としていたともいわれています。

茶道の所作は礼儀を重んじ、お湯を適度に沸かし、高価な道具を扱い、相手を気遣って、一碗の美味しいお茶を点(た)てます。観るだけではなく、説明を聞いて味わい、実際に身体を動かして体験することは、今ここで起こっていることだけに意識を

向けるという「マインドフルネス効果」があるのではないかと思います(言葉の深～い説明については、LTR 通信 8 ページに掲載している“【連載】マインドフルネスのススメ”を参照ください)。戦(いくさ)で殺伐とした心を平常に戻すためにも、茶道はなくてはならないものであったの



かもしれません。

現代のビジネスの世界は、武士にとっての戦にたとえることができます。普段はさまざまな交渉や取引があり、締め切りに追われ、すさんだ心の状態でも、茶道を通じたひとときの心の安らぎは、現代社会においても必要なのではないのでしょうか。普段の生活に取り入れる

ことによって、また違った景色が見えてくるかもしれません。

そしてこのように、もともと男性のものとされていた茶道の世界は、時代の流れとともに女性が中心になっていきます。茶道界では、顧客を今までの男性から女性に大きく方向転換して市場を拡大しています。これまで当たり前だった常識を打ち破り、ターゲットを女性にすることで、時代の流れや変化に対応してきたのも茶道です。古くから脈々と受け継がれてきたこのような文化も、変化を遂げながら現代に至っています。

コロナ禍で一気に様変わりしてしまった現代社会においても、臨機応変に対応していくことの重要性や価値観を柔軟に変える必要性について、この茶道から学ぶことができるかもしれませんね。(不動産鑑定士・一級建築士 鈴木 泰三)